

36 内間金丸 うちまかにまる

内間金丸 うちまかにまる という人がおります。これは八重瀬 やえじ の人でしょう。その人ですね、嫁さん、それが他の者と恋をして。それを、おながが大きく、月日がたつて大きくなるもんですから、これはもう男に、夫に対して済まないからというので、是非何しなきゃいけないと、鉛を呑むんです、何回も。その鉛を呑んでいるうちにね、妊娠してる。子どもが鉛で出来上がってるんですね。この、他は全部鉛で、この喉元だけを本当の何やつたらしいですね。

この子どもがですね、産まれ月になって、前もつてですね、お母さんに夜寝ておつて、「お母さん、私はもう産み月も近いから、私が産まれるとお母さんの命がなくなるから、どうしますか」と聞いたらしいですね、おなかに入っていて。この子どもがですよ。お母さんは、

「あんたが立派に産まれるんだつたらお母さんは死ん

でも構わないから、立派に丈夫に産まれてくれ」と、
こう一言言つて産まれてきたそうです。

それが、まあ、子どもを産んで。その子どもが大きくなつてからの話ですがね、その城に闘争が、戦争ができて。何は、鉛になつた何は、真つ先に戦いに行つて。反対側は大勢でどうしようもなくて、最後にですね、喉元にやられて。弓の矢。

それで、その人はとにかく死んで。死んだことは死んだですけど、その人はですね、まあ、部下の連中が生きているようにして、両手を上げて、立派に何か、何やつていたんじゃないかと。

「金丸は死んだんだから、もう大丈夫だ」と、敵のほうは安心していたんです。ところがこの人はちゃんと手を上げて、それが、

「まだ生きているから大変だ」と言う。逃げるの、途中で逃げるのを気絶して、死んだのが相当いたつて。

そういう話を聞きましたよ。

これは八重瀬岳^{やえしだけ}の。

字新垣

宮里栄吉